今年のミュージックゲストはクリスチャンで音楽活動をしている久米小百合さん。美しい歌声で、彼女が久保田早紀として活動していた頃の、大ヒット曲「異邦人」をリクエストに応えて歌ってくださり、大喝采。最後は横山大輔夫妻が会場を盛り上げてくださり、すっかり賛美フェスに仕上がっていた。

「見よ、兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんという幸せ、なんという楽しさであろう」（詩篇１３３篇１節）

そんな天国のような空間を作り上げ、ここまで守り、導いてくださった、主に感謝し、「いつかまた！」と新潟をあとにした。新潟空港から福岡へ飛び、翌日は、マキキメンバーの樋上智津子姉が出席する、箱崎キリスト教会で証しをする機会を与えられ、至らない私が、主によって変えられ、信仰の友たちと共にイエス様の愛を伝える特権を与えられていることの幸いをシェアさせていただいた。これまで一度も母の前で証しをしたことがなく、直接感謝の言葉を言うこともない親不孝者に、主が時を与えて下さった。帰国日、羽田空港には、中学時代からの親友たちが見送りに来てくれた。２週間後に控える洗礼式の後に読む証しを読ませてくれ、14歳のあの荒んだ青春時代を過ごした私たちに、こんな嬉しい瞬間があることを過去に戻って伝えたい！！と思ったほど感動した。「**神のなさることは、すべて時にかなって美しい**」（伝道者の書３章11節）最後に、このような旅に快く送り出してくれた夫、店を守ってくれた姿姉、突然の訪問を喜んで迎えて下さった姉妹たち、日本の家族に心から感謝をし、
「また主が用意をしてくださるいつの日かまで！アロハ！」

2024年 10月発行　　発行: MCC宣教部

天主閣だより

マキキ聖城キリスト教会

第342号

「敬老」

マキキ聖城キリスト教会　藤浪義孝牧師

10月

先月の休暇中、母を訪ねました。母は今年米寿を迎えました。一日一日と日を追って記憶力の低下や身体機能の低下が進んでいます。寝たきりになり、介護者に100%依存している母の姿に、とても悲しくなります。10年以上お世話になっている老人ホームを訪ねた際、母に敬意を表し、母の尊厳を守り続けてくれている介護士さんたちに感謝の気持ちを伝えました。

ある日、食堂で母に食事を与えるのを手伝っていたとき、他の高齢の入所者たちが、心のこもった温かいケアーで介護士さんたちから給仕してもらっている横で、私は聖書の一巻、レビ記19:32を思い出しました。

「白髪の人の前では起立し、長老を尊び、あなたの神を畏れなさい。わたしは主である。」

この聖句は、高齢者に尊敬と敬意を払うことの重要性を強調しています。

古代イスラエル社会では、高齢者は知恵と経験の源と考えられていました。高齢者は長い人生を生き、貴重な知識を蓄積してきました。ですから、「白髪の人の前では起立しなさい。」という命令は、敬虔に立ち、彼らの存在を認めることを意味します。これは、彼らの知恵と年功序列を認める、尊敬を表す振る舞いなのです。

「長老を尊び」とは、高齢者の助言に耳を傾け、導きを求め、地域社会への貢献を評価することです。年寄りを敬うことによって、イスラエルの民は、「あなたの神を恐れなさい。 」という言葉に示されるように、神に対する敬虔さを示しました。

高齢者を敬い尊重することは、社会的な義務であるだけでなく、宗教的な義務でもあります。主である神は、イスラエルの民に、高齢者を尊敬し敬うように命じています。この戒めには、思いやり、共感、そして年齢に関係なくすべての人が本来持っている価値と尊厳を認めるという価値観が反映されています。同時に、この命令は、世代間の関係と、世代から世代への知恵の伝達の重要性を教えています。若い世代が年老いた世代の経験を尊重し、そこから学ぶことで、調和のとれた、秩序ある社会が築かれるのです。

私たちは、社会の高齢者を尊敬し、いたわり、感謝する文化を培うべきです。これには、高齢者の話に積極的に耳を傾け、助言を求め、高齢者の貢献を評価することが含まれます。そうすることで、私たちは神への敬虔さを示すだけでなく、より包括的で思いやりのある共同体を作ることができるのです。

この聖句は、さらに私たちの老いと高齢者に対する態度を吟味するよう促します。この聖句は、高齢者を軽んじたり疎外したりする年齢差別的な考え方に果敢に取り組むよう促し、年齢を重ねることで得られる知恵や人生経験を認め、高齢者を祝福するよう求めているのです。

高齢者を敬い、尊重することは、家族、社会、国家の祝福につながります。白髪の人の前で敬虔に起立し、高齢者に威厳をもって接し、彼らの知恵を認めることで、私たちは神への敬虔を示し、より思いやりのある包括的な社会に貢献するのです。

川の上流から下流にたえず流れている水のように、祝福は、高齢者から若者に流れるものです。世代から世代へと知恵を伝える大切さを覚えます。高齢者を心から尊敬し、彼らの経験から学ぶ若者は、知恵を身につけ、調和のとれた健全な地域社会と未来を創造する一助となるのです。

私たちは麗しい神の民であり、私たちの教会と私たちの地域社会の高齢者を尊重し、いたわり、感謝する文化を培うよう求められているのです。 高齢者を敬うことには、高齢者の話に積極的に耳を傾け、助言を求め、高齢者の貢献を評価することが含まれます。

私たちの教会は人間関係を大切にすることで知られています。 私たちは神を畏れ敬い、より思いやりのあるコミュニティーを築くために努力する人々です。 今月5日(土)に行われる恒例の教会祭（フェスティバル）には、近隣の地域から多くの方が来られます。 そのような方々が、私たちの教会を、高齢者の方々を慈しむ豊かなコミュニティーとして見てくださることを心から願います。

今月の証 「ハワイ発新潟経由福岡まで」 玉寄 朋子

母の米寿のお祝いと孫の１歳のお誕生日のお祝い、親友の洗礼をお祝いをするために日本に行きたいと願っていたが、なかなか道が広がらず、「今回は無理かな？」と諦めかけた時、突然、主がその道を与えて下さり、１０日程の間で不在の色々な準備をし日本へと旅立った。

与えられた日程には、なんと新潟県燕三条の小杉農園の梨狩り伝道集会もあった。２０周年にハワイから山本テリー姉と共にお祝いに駆けつけたのが５年前。今年は２５周年の区切りの年。母に「また行きたい？」と尋ねると「ぜひ行きたい！！」と。急遽決め、サプライズで行くことにした。まだ残暑が残る燕三条の農園への訪問は、３回目となる。集会が、始まった当初は、まだ人は少なく、空気も涼しく、鈴なりになる梨棚の下で、ビールケースをひっくり返した椅子に手作りテーブル。午前中は、音楽ゲストに、アーサー・ホーランド牧師のメッセージ。梨狩りを楽しんでいる間にBBQの準備がなされ、美味しいお肉に新鮮な野菜、畑で出来た梨をたっぷりいただき、午後は余興の時間。そのプログラムは２５年間変わっていない。それも主催者の小杉祥子姉が、ハワイで、いえ、マキキで、事あるごとに行ったBBQを新潟の人々にもイエス様の愛と共に伝えたい！という純粋な信仰から始まったイベントだ。それが２５年も続き参加人数も奉仕者も年々増え、今では地元の名物イベントになっている。温暖化の影響か、９月でも真夏のように暑いが、訪れる人の熱気も強くなっているような気がした。マキキの姉妹で、先日、日本へ帰国した、桑子里美姉、中村匠子姉、前田以智子姉をまずは驚かせ、汗だくの小杉祥子姉と５年ぶりのハグをした瞬間は本当に嬉しかった。午後の余興もかつての民謡からゴスペル賛美が多くの時間を占めるようになり。この長い年月の中での主の働きを感じ、「確かに主が生きて働いておられる」様子を目の当たりにした。さらに去年から信仰告白をする方や、洗礼を希望される方が起こされ、昨年に引き続き今年も３名の洗礼者が与えられた。その中のお一人は、この日、アーサー先生に結婚式をしていただいたご夫妻のご主人。梨棚の下での式は感動的で、２００名近い証人の前で誓いをたてたお二人に、祝福が降り注がれた。